

光のクサフグ産卵地

光市大字室積字普賢山 山口県（光市管理）

昭和44年2月4日指定

クサフグは体長約15cmとトラフグ属の中では最も小形で、腹部は白いが背部は淡灰青色をし、淡黄色の小円点が多数ある。本州中部以南の沿岸に多く生息し、毒性が強いことでも知られている。このクサフグが毎年産卵のために、室積半島の南側沿岸辺、杵崎鼻から赤崎鼻にかけての海岸にやってくる。

産卵期は毎年5月中旬から7月上旬の間で、この時期にクサフグの産卵を観察できる。盛期は5月下旬から6月上旬で、産卵日は太陰暦の朔または望の1日ないし4日前である。産卵床となる海岸は水深20~40cmと浅く、産卵盛期になると礫石の間に魚の姿が認められるようになる。

産卵日には満潮時の2、3時間前に、メスが小石のすき間に卵を産みつけ、これにオスが放精して受精が行われる。このため、産卵時には、海面が精液で白く濁ってくる。産卵は日没前に止み、満潮と共にクサフグの群れは海中に消えていくが、卵は磯波で洗い流され、下層の砂利層の中に入り込んでいく。ここで適度な水分と太陽熱を得て、3、4日後には孵化し、大潮によって沖へ泳ぎ出ていく。

